

みかん園における DBN 除草剤の春草対象全面処理の実用性について

高橋健二

1. みかん園でスポット処理として使用されている DBN 粒剤の全面処理の効果を処理時期別に検討した結果、温度の高い夏処理の効果がもっとも劣った。
2. 秋処理と春処理の効果はいずれも高く、実用性が認められたが、草種によっては再生の差が大きく、優占草種の種類別を選択する必要があると考えられた。
3. 越年草のカラスムギ、ヨモギ、ギシギシ、スイバなどでは春処理よりも草丈の小さい秋処理の効果が大きかったが、4月頃に繁茂するカラスノエンドウは秋処理より春処理の効果が優れ、秋処理の場合は再生が著しかった。
4. ヤブガラシは春処理によって発芽が極端に抑えられたが、6月頃には再生が著しく繁茂するので、処理時期をやや遅らせた方が良いと考えられた。
5. 春草対象として DBN 粒剤の全面処理を実施する場合、3月上旬から下旬にかけて行なうのが適当で十分実用性が認められた。濃度は 10kg/10a でよいが薬量が少ないため、散布ムラが生じやすい欠点が認められた。